

2024年4月11日

## 2023年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人環境再生機構

代表者・役職名 氏名 理事長 日並洋一



### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクト名

国連の持続可能な目標 SDGs13 番目の「気候変動の具体的な対策」に対応する活動

### 2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

地球温暖化が、人類をはじめとする生物界全体に深刻な問題をもたらすことを危惧し、温室ガスの削減や環境問題の重要性を啓発しなければならない思いから設立。植樹によるカーボンオフセット活動を展開。2015年しまみずを利用したコンポスト実験開始。東京農工大農学部学生と協働でみみずコンポストの実証研究を行い現在に至る。会員数15名(随時会員含む)

### 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

家庭生ごみの処理の方法が社会問題になっています。自治体のごみ収集による焼却処理には多額の費用が掛かるとともに多量のCO2を排出します。みみずコンポストによる生ごみリサイクル=堆肥化により、化石燃料などを使わないecoな方法で社会問題を解決するとともにこの堆肥を活用して循環型有機栽培野菜を多くの市民が求めており、自給自足及び食の安全や環境問題・情操教育をテーマにした活動のイベントを交えながら広く市民に広報・啓発活動を展開する必要があります。

### 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

- ・夏の猛暑のため、みみず養殖用カブトムシ小屋&みみずコンポストの制作は予定より大幅に遅れて12月に完了した。
- ・5月、子供にカブトムシ幼虫を無償配布し親子生物飼育体験学習を行った。
- ・賃借畑で月1回有機野菜栽培実習を行い子供の食育や情操教育を行った。
- ・毎月みみずコンポストのメンテナンスを行いみみず飼育環境の最適化を図った。
- ・7月カブトムシ相撲大会を開催し、雄雌交換会により卵を産ませる循環事業を行った。
- ・10月ハロウィン仮想大会&かぼちゃランタン(畑で栽培した)づくりを行い親睦を図った。
- ・みみずコンポスト稼働状況を毎月集計し、CO2削減量、生ごみ処理費用の策源地を報告。
- ・年末に親子餅つき大会を行い、伝統行事の継承及び親睦イベントを行なった。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

みみず養殖用カブトムシ小屋 & みみずコンポスの制作により、子供たちはカブト虫飼育体験を行うとともに、みみずによる生ごみリサイクル＝堆肥化による循環型農業の社会貢献を体験できる充実感を体験していた。

みみずコンポスト稼働状況は:

月	生ゴミ投入量(g)	削減 CO2 量(CO2g)	税金節約額(円)	参加家族数
1月	28,980	59,440	2,201	7
2月	16,810	34,490	1,277	5
3月	27,200	55,790	2,066	7
計	72,990	149,720	5,544	19

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

- ・人手不足、高齢化によるコンポスト制作に手間取り事業開始が遅れ、今後の大きな課題を残した。
- ・親子が活動参加できるイベントを企画して啓発活動を展開していく。
- ・若手正会員の加入を促進する努力を行う。
- ・脱炭素社会の推進を具体的に推進する。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

報告写真



みみずコンポスト&カブト虫小屋



みみずコンポスト&生ごみ軽量秤



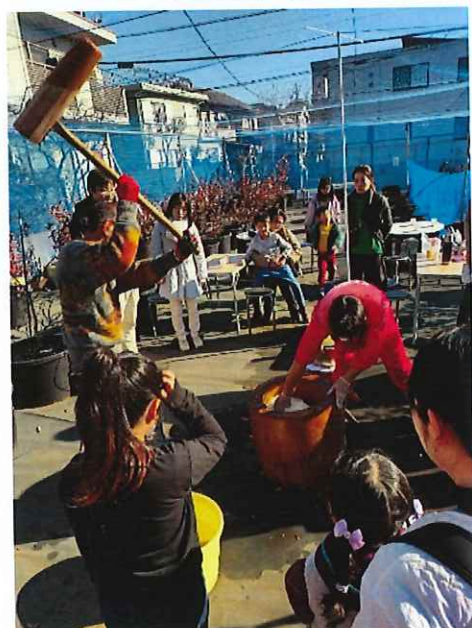
カブトムシ小屋



カブト虫相撲大会



ハロウィン仮装大会



親子餅つき大会